

会 議 録

平成21年1月19日調製

審議会等名	平成20年度 第2回 社会教育委員会議		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成20年12月3日(水) 午後7時00分～9時00分		
開催場所	三条市役所第二庁舎 301会議室	傍聴者	なし
		報道機関	なし
出席者氏名	社会教育委員 棚橋正明委員 安藤正之委員 小菅 信委員		
	廣川邦夫委員 樋口一三委員 中村保夫委員		
	目黒徳一委員 横山正美委員 山田宏高委員		
	阿部凉子委員 太田礼子委員 高橋美智子委員		
	三条市	金子生涯学習課長 近藤生涯学習課課長補佐	
		小林生涯学習係長 山田主事 武藤主事	
	(欠席者)	丸山照子委員	
報 告	(1) 中越地区社会教育研究大会について		
	(2) 新潟県社会教育研究大会について		
	(3) 全国社会教育研究大会について		
	(4) (仮称) 第二中学校区公民館建設事業について		
	(5) 図書館栄分館整備事業及び栄公民館の移転について		
議 題	(1) 平成19・20年度 社会教育委員会議のテーマについて		
	(2) 平成20年度成人式の開催について		
	(3) その他		
発言内容等			
廣川議長	次第に従い、(1)「中越地区社会教育研究大会について」阿部委員より報告を願いたい。		
阿部委員	研究大会に参加する度に三条市の施設の貧弱さを痛感する。分科会で話し合った内容としては、ゆとり教育に関するものなどがあがった。ゆとり教育に関しては、見直しの方向で進んでいるが、学びの場を学校・社会と大きな範囲で考えると、ゆとり教育は必要であるという意見が大半であった。また、他市での好事例を聞く中で、殆どの事例は個人が地域に対して行っている活動であって、その中から、社会教育委員と行政との関わりが		

	見えてこないという疑問が残った。
	次に教育委員と社会教育委員の連携について話が出て、十日町市と南魚沼市では、定期交流を行っているという事であった。三条市でも定期交流を実現できればと思う。
廣川議長	中越地区社会教育研究大会は、各委員が希望の分科会に分かれ参加したわけだが、この場で発表したいことがあればお願いしたい。
一同	<発言なし>
廣川議長	それでは（２）「新潟県社会教育研究大会について」太田委員、棚橋委員より報告を願いたい。
太田委員	「地域社会の変化に対応する社会教育のあり方」について、１日目は分科会、２日目は講演会と２日間に渡って開催された。１日目の分科会は、「生涯学習のまちづくり」に参加し、五泉市寺子屋事業の実践についての事例発表があり、指導者には教員を退職された方を充てるなど、きめ細かい指導が行われていた。地域には宝ともいべき人材が多くいらっしやり、その人材を活用する事で、地域の大人も生き生きと豊かで元気になり、子ども達も様々な大人との関わりの中で、コミュニケーション能力の向上や、自立心を身につける事が出来るという事が心に残っている。
	２日目の講演では、社会教育委員の歴史・変遷など非常に分かりやすく聞くことができた。その中で「江戸しぐさ」の話が出てきたが、日々の生活の中でも大人の仕草・行動が子ども達に大きな影響を与えているという事を再度考えさせられた。この研究大会を通し、これから自分が社会教育委員として何をしていたらよいかを考えると、地域に対する社会教育委員のあり方などが大事であり、地域活動への参加をはじめ、まずはやれる事からやっていきたいと思った。
棚橋委員	２日目の講演のみに参加した。詳しくは配布した資料を見ていただきたいが、講演の中で強く感じた事は、親等の「職の世界」と「役の世界」の違いについてである。つまり、現代においては「役の世界」が衰退してきているということであり、個々の「役」が大事だということを再認識したところである。
廣川議長	それでは（３）「全国社会教育研究大会について」山田委員、安藤委員より報告を願いたい。
山田委員	非常に印象的な会であったが、いつまで経っても、どこに行ってもいつでも入口であるという印象は拭いきれなかった。会に参加しての私なりの社会教育委員とは何かに対する結論としては「家庭教育と学校教育と手を携えながら地域教育として活力のある人たちが心豊かに生活をする故郷づくり。」である。なぜ故郷づくりとしたかという、１日目の講演を聴く中

	<p>で、故郷のありがたさが印象に残ったからである。では、実際に何をするかということ、コラボレイトが大事であり、学校教育と地域教育のコラボレイトがうまくいっている所がいい実例を挙げている。このコラボレイトを進めるための動きとしては、縦割りの行政と横のつながりのある地域とを縦横無尽に動き回り情報を交換しながら動くことが必要であり、社会教育委員の役割であると感じる。最終的には行政のトップの決断が必要であり、うまく回っている団体はトップ自らが声を出している。社会教育委員は、その決断をさせるための提言をする必要がある。</p> <p>これが、全国社会教育研究大会他3つの大会に参加して得た結論である。</p>
安藤委員	<p>1日目の講演の中で、オーロラの観測に50年関わっているが観測は様々な角度から物事を考えなければならず、未だに答えが出ないまま今も観測を続けているという言葉が印象に残っている。</p> <p>2日目の分科会では、学校の統廃合の話などが事例として挙げられ、とかく学校の廃校は悲しい事実として捉えがちだが、子ども達は違う目線で受け止めていた。今回の研究会に参加した中で、社会教育委員としてやらなければならない事について、最終的な一つの答えは出ていないが、地域に密着し、行政とのパイプ役になることが重要な活動の一つであると考え</p>
廣川議長	<p>次に(4)「(仮称)第二中学校区公民館建設事業について」事務局より報告を願いたい。</p>
金子課長	<p>報告事項(4)「(仮称)第二中学校区公民館建設事業について」及び、(5)「図書館栄分館整備事業及び栄公民館の移転について」は、社会教育を取り巻く、現在整備を進めている2施設についてご理解を得たく報告するもの。 <資料に基づき報告></p>
廣川議長	<p>今ほどの報告をうけて、意見・質問等あれば伺いたい。</p>
棚橋委員	<p>多目的ホールの机・椅子の数並びに和室の座卓の数等教えていただきたい。</p>
金子課長	<p>多目的ホール1の場合は180人程、多目的ホール2は120人程を考えている。和室の座卓の数は算出していないが、約27畳という中で考えていただきたい。</p>
横山委員	<p>将来的に避難所として考えているか。</p>
金子課長	<p>同地区の一次避難所が第二中学校、二次避難所が一ノ木戸小学校となっており、公民館は避難所としては考えていない。</p>
高橋委員	<p>多目的ホール1について、ステージを設けた方がよいのではないか。</p>
金子課長	<p>ステージ設置要望もあったが、美術展示を優先するという事で設けていない。もし、設ける場合は、移動式のものとなると思う。</p>

山田委員	アクセス面で、道路の改善はどのように考えているか。
金子課長	南側の交互通行の道路は拡幅している最中である。西側の一方通行の道路については、道路を拡幅し一方通行を解除することが望ましいが、拡幅するにも住宅がかかるなど、一方通行を解除する事が難しいため、現状のままと考えている。
樋口委員	駐車場について、93台を確保するとあるが、中央公民館などでは駐車場が狭いなどの話を聞くが、93台で足りるのか。
金子課長	中央公民館の駐車場は70台程度であるが、大ホールなどがあるため、狭いという認識でいるが、(仮称)第二中学校区公民館については、中央公民館とは規模も違うため、93台で対応できると考えている。それでも足りないような場合は同敷地内にある一ノ木戸小学校利用予定地の利用や土日に地域振興局の駐車場の利用を考えている。
廣川議長	それでは(5)「図書館栄分館整備事業及び栄公民館の移転について」事務局より報告を願いたい。
金子課長	<資料に基づき報告>
廣川議長	報告をうけて、意見・質問等あれば伺いたい。
中村委員	子育て拠点施設については市民の要望が多いと聞くが、利用者の範囲はどのように考えているか。また、今後違う場所での設置の予定はあるのか。
金子課長	子育て拠点施設の設置については、全市的にこの施設が核となる。利用者の範囲については、就学前乳幼児を基本とし小学校低学年までとを考えている。その関係で図書館は絵本や児童書を充実させることで整備を進めている。
目黒委員	栄公民館は現在農村環境改善センターに移転しているが、栄公民館講堂などに移転させてはどうか。また、今後建設を予定している体育館内への移転など、どのように考えるか。
金子課長	現在、農村環境改善センターが栄公民館の活動の中心の場となっている事等から、栄公民館の事務室は農村環境改善センター内に置くものとした。また、栄公民館講堂については、栄の体育館の建設を予定していることから、平成20年度末をもって使用を停止し、来年度早々に取り壊しの予定。体育館は指定管理者制度による運営形態を想定しているので、体育館の管理と公民館は別ものと考えていただきたい。
阿部委員	栄庁舎改修後の図面を見ているが、中庭はどのように活用するのか。自由に出入りができ、外遊びが出来るようにしていただきたい。
	次に、3階の活用はどのように考えているのか。
	最後に、農村環境改善センター内に公民館が移転しているが、農村環境改善センターは公民館として借りることが出来るのか。また、農村環境改

	善センターは生涯学習課の施設として考えていいのか。
金子課長	まず、中庭の活用については、資料にあるとおり、現行のまま利用するというので、自由に出入りができ、外遊びが出来るようにしている。また、図面には載っていないが、庁舎東側には、ペダル自転車広場を設ける予定でいる。
	次に3階の活用については、議場が空いているが、今のところ利用の方向性は出ていない。
	最後に農村環境改善センターについては、今年度より生涯学習課の所管施設となっており、現在も公民館活動やサークル活動が行われている施設なので、公民館機能を併せもつ施設として考えていただきたい。
樋口委員	建物としての施設はどこにでもあるが、燕市にある交通公園のような、自由に使える原っぱや、アスレチック施設などを考えていただきたい。
金子課長	栄庁舎を利用しての施設と考えているため、その点についてはご理解頂きたい。
廣川議長	報告事項については以上とし、議題に移りたい。(1)「平成19・20年度社会教育委員会議のテーマについて」三条市の組織機構の見直しに伴い、新しい位置に位置付けられた社会教育委員が今後どのように進むべきか、なども含め、前回の会議で出してもらった意見を元に19年度に選出した小委員会メンバーで話し合い、骨子(案)を作成した。
	このことについて横山副議長より説明をしていただき、委員の皆様からは様々な意見を出して頂きたい。
横山副議長	説明に入る前に、提言のまとめ方について、あらかじめお伝えしたい。今日の会議で意見を伺ったのち現在の幹事会を引き続き開催し、第3回の会議の前までに素案を提示し、承認が得られれば、それをもって市への提言としたい。 <資料に基づき説明>
廣川議長	説明を受け、意見を頂きたい。
阿部委員	委員全員の意見を反映させ、委員全体の意見として提言するのか、幹事会でまとめた意見を認める形で提言とするのか。どちらの形式と捉えればよいのか。
廣川議長	骨子(案)はあくまで、前回委員の皆様から出された意見を元に作成したものである。
阿部委員	骨子(案)のサブタイトルに「地域と団塊の世代の関わり」とあるが、内容の中に団塊の世代を突出させた部分がない。個人的には団塊の世代については採り上げる必要はないと考えているが、この骨子(案)では、団塊の世代をどのようにしたいかが見えてこない。
	また、家庭に関する内容について、子どもの事には触れているが、社会

	<p>教育委員として関わっていききたい部分は、子どもよりも親に対する関わり方だと考えてるので、親に対しての社会教育を強調していただきたい。</p>
山田委員	<p>様々な大会に参加し、強く感じた事は、行政と地域の融合を図ることが社会教育委員には必要ということである。しかしながら、社会教育委員は予算を持たない組織であるため、提言をすることしか出来ず、物足りない気持ちである。例えば「子どもや地域教育に携わる全ての人を対象とした講演会などを主催する」など、より具体的な提案を提言してはどうか。</p>
中村委員	<p>家庭の問題、学校の問題は地域の問題に包含されている問題ではないか。地域が家庭や学校を包み込むイメージを持たせる提言内容としてはどうか。</p>
安藤委員	<p>社会教育委員の位置づけを明確にすることが一番大事ではないか。部屋の中で話し合いをし、行政に提言をしても10の内1受け入れられれば良い方ではないか。実際に外に出て、地域と行政とのパイプ役となるような役割を果たすという位置づけを明確にしたい。</p> <p>また、今回出た意見を幹事会で集約することになるが、次の幹事会をなくし、全体の会議として提言の中身を深めていってはどうか。</p>
廣川議長	<p>残り1回の社会教育委員会会議では時間が少ないということで、もう1回社会教育委員会会議を増やすということだが、このことについて、意見を頂きたい。</p>
小菅委員	<p>社会教育委員会会議を増やすことについては、予算の関係で問題があるのではないかと。また、全体会議を1、2回増やした程度で、提言の内容をどの程度深めることが出来るのか疑問である。全体会議を増やすのであれば幹事会の回数を増やし、そこで内容を深めてはどうか。また、骨子（案）の中で重要なものは、社会教育委員の役割の再設定の部分である。</p>
山田委員	<p>今年参加した全国大会の中でも、「社会教育委員は何をしたらいいのか」との発言もあり、現状の社会教育委員の位置は、非常に曖昧で境界線が不明確になっている。</p>
阿部委員	<p>自主的な勉強会をしてはどうか。新任の年に参加した研修の中でも、3回程程度の会議では足りないのでは自主的な勉強会が必要という話があった。</p> <p>また、地域によって社会教育委員の立場の捉え方がまちまちであり、立場・位置づけを考えていく時ではないか。今回の組織見直しで教育委員会から市民部へ移った事により、学校関係からも声がかからなくなるなど、大変連携しづらい状況である。</p>
山田委員	<p>阿部委員の話のとおり、社会教育委員として呼ばれる機会が減った。組織見直しにより教育委員会から外れたが、教育委員会との連携が希薄になってはいけない。他の市町村の社会教育委員は放課後の子どもの扱い方な</p>

	<p>どを議論しているが、三条市は組織見直しを機に取り扱わなくなっており、おかしいと感じている。</p>
廣川議長	<p>新しい組織の中での社会教育委員の位置づけを明確にする必要がある。</p>
山田委員	<p>行政が担保する明確な位置づけが重要である。</p>
小菅委員	<p>社会教育委員の役割の視点は大事である。また、残り3ヶ月でどのような提言ができるのかということを考えることも大事ではないか。</p>
廣川議長	<p>社会教育委員会会議をもう1回増やすことは難しいが、幹事会で回数を重ね、深めていくことは可能である。皆さんの考えを聞きたい。</p>
小菅委員	<p>幹事会の中で深めていただくことが望ましい。</p>
阿部委員	<p>幹事会について、今年から発足したものであるが、社会教育委員会の中での幹事会の立場・位置づけはどのようなものなのか。</p>
横山副議長	<p>平成20年度第1回社会教育委員会会議の中で、小委員会として発足し、承認されたもので、委員全体の意見を集約するための会として捉えていただきたい。</p>
廣川議長	<p>委員全体の意見が膨大な量になったことから、それらをまとめ、全体の意見のある程度の形にして委員に示すための機関として発足したものであり、今回の会議においては、より深く議論をする必要がある意見が多く出たため、次の小委員会を開催する際には、決まったメンバーではなく、委員全員に周知して開催するものとしたい。</p> <p>次に(2)「平成20年度成人式の開催について」事務局から説明を願いたい。</p>
小林係長	<p><資料に基づき説明></p>
阿部委員	<p>合併前の旧栄・旧下田では社会教育委員全員に主催者として案内を出しているが、合併後は代表者のみへの案内となっているが、今後は全員に出してもらいたい。人数の関係で難しいのか。</p>
金子課長	<p>社会教育委員からの要望ということで、全員に案内をしたい。</p>
廣川議長	<p>長時間にわたる熱心な議論に感謝する。</p>

21:00閉会